



学院時報

No.98

令和4年3月1日発行

聖ドミニコ学院

幼稚園・小学校

中学校・高等学校

〒980-0874

仙台市青葉区角五郎2-2-14

URL: <http://www.dominic.ac.jp>

TEL 022(222)6337

FAX 022(221)6203

北仙台幼稚園

〒981-0914

青葉区堤通雨宮町11-11

TEL・FAX 022(234)3615

全日本合唱コンクール 全国大会出場 金賞受賞

合唱顧問 齋藤 朋枝

約二年、コロナ禍において合唱活動を継続することは困難が多く、子供達とともに悔しい思いを味わうこともあった。その中で、気持ちを途切れさせず、一人ひとりが一生懸命努力した先に、二度目の全国出場というご褒美を頂けたことは、ドミニコ合唱団にとって大きな励み、誇りとなった。

「昨年コンクールに出られなかった先輩方の思いをこめて、一生に一度きりのステージを全力で歌うことができ、とても楽しかったです。皆が仲間を信じ、一人ひとりの役目を果たせていたとも思います。」全国大会直後の、六年柴田里彩さん(団長)の感想だ。こうした達成感を味わえただけでも十分に幸せなことだが、コンクールから帰るバスの車中で金賞受賞の結果を知り、全員で歓喜の声を弾ませ、互いの頑張りを称えあつた、かけがえのない思い出もできた。今大会を振り返る作文では、仲間と歌う楽しさは特別なこと、そしてそれは、沢山の方々の支えとあたたかい応援があったからできたこと、そうした「歌えることへの感謝」の思いが子供達の文面に溢れていた。

二月。卒業に向けて練習を深めようとした矢先。感染拡大により、大好きな歌を仲間と歌えない日々を過ごしている。今はそれぞれの場所で歌声を磨き続け、この試練を乗り越えたい。また皆が集まり、ドミニコハーモニーに感謝と愛をこめ、沢山のの人に喜んで頂く歌を届けること、それが、今一番の希望である。

と、それが、今一番の希望である。
♪ 第八回卒業演奏会のご案内
令和四年三月二十日(日)



と、それが、今一番の希望である。
♪ 第八回卒業演奏会のご案内
令和四年三月二十日(日)

聖書のいっぱい

「いつも喜んでいなさい。
絶えず祈りなさい。
どんなことにも
感謝しなさい。」
(テサロニケの信徒への手紙一
5章16〜18節)

桜咲く春の喜びのうちに、御幸園、御卒業を迎えられた皆さん、心よりお慶び申し上げます。コロナ禍にあつて迎える進学や就職、苦しい時もあるでしょう。でも苦しみはわたしたちを神へと向かわせ、そこから深い祈りが生まれます。祈りには物事を変える力があります。わたしたちは愛し愛されるとき、生まれてきた喜び、生きていく喜びを強く感じ、心からの感謝を神へ捧げることになります。笑顔が忘れられず、折れない時、感謝できない時、どうぞこの聖書のこたえを思い出し、神への感謝の祈りを忘れず、神がこたえを教えてくださること、神がわたしたちに望んでおられることなのです。

中学校高等学校教主任

菊森 拓也

「働き方改革への取り組み」

聖ドミニコ学院理事長 小笠原朋之



「二億総活躍社会」の実現に向けて社会全体が「働き方改革」へと動き始める中で、今年度七十七リサーチ&コンサルティングの協力・支援を受け、当学院は「教職員が持続的に活き活きと働くことができる環境の実現を目指して」、下記の計画に基づき、働き方改革に取り組んできました。

記

- 前期：労働時間管理に関する実態把握と課題の整理
1. 働き方改革の必要性に関する説明
 2. 労働時間に関する法的要件の確認
 3. 労働時間の実態把握
 4. 働き方改革に関する意識調査
 5. 長時間労働の是正に向けた管理職向け研修の実施
 6. 労働時間の適正化に向けた課題の整理
- 後期：労働時間管理にかかる制度・ルールの整備と定着支援
1. 働き方改革に関する基本方針の説明
 2. 現状分析及び基本方針の説明
 3. 労働時間に関するルールの見直し
 4. 労働時間に関する制度の見直し
 5. 固定残業制度導入の検討
 6. 長時間労働の是正に向けた計画の策定
 7. 働き方改革推進計画の説明
- そして昨年十二月の理事会において、

「恵みの説教者」

中学校高等学校校長 Sr 柚木 洋子



聖ドミニコ帰天八〇〇年という記念の年の幕を一月六日に閉じました。聖ドミニコは「恵み

決定した基本方針は、以下のとおりです。
・目標を共有して協働する組織「チーム・ドミニコ」へと進化し、校種の枠を超え、全教職員で課題解決に取り組む。
・カトリック学校としての使命に基づき、ドミニコの教育の良さを保持し、園児・児童・生徒及び保護者の信頼に応える。
・「働き方改革」を進めるにあたり、中・長期的な経営の安定に向け、財務の健全化とのバランスを確保する。
・法令に従い、長時間労働を是正するため、教職員の主体性・自主性を尊重しつつも、一定のルールを定め、その遵守を求める。
・既存の延長ではなく、発想から根本的に変えてスクラップ&ビルドを進め、メリハリある重点化を図る。
・人材配置、システム投資、諸ルールの見直し等とおして、必要なことを効率的に行う仕組みを構築する。
・来年度に向け、この基本方針に基づき、労働時間管理及び一年間の変形労働時間制導入と労働時間の適正化を中心とした働き方改革の推進を実施していきます。

の説教者」と言われます。それは彼が「神と共に、あるいは神について語る」方だったからです。彼はいつも神の恵みと共にありました。

現代は聖ドミニコの時代に似ているといわれます。それは社会生活の中に、これまでなかった要素が入り生活形態が激変し、それに影響されて人間の考え方や心理も変わり、以前には考えられなかった事態が生まれるという意味においてです。それまでの封建社会に変わって二二世紀になると技術の進歩、経済力の発展から都市が生まれ、人間関係も複雑化しました。そのような新しい社会的歴史的变化の中で聖ドミニコは福音の読み取りをしました。人間が見、聞き、感じ、読み取ったところから出発する改革です。

私たちは百年に一度の災厄で、人に会うのが難しく孤独を強いられる方も多く人間関係や距離に注意を払いながら生きています。改めて人間は繋がりの中で生きる存在なのだと痛感します。いつも人に触れていくことも、そうはいかない。しかし、自分の発した言葉が誰かの内で受け止められていると実感することで誰かと繋がっているという確信を持つこともできるのです。聖ドミニコの精神を受け継ぐ私たちに、いま、求められていることは何か、一人ひとりが自分の立場から見出していくことが大切だと思います。



幼稚園

運動会

十月二日に行われた運動会は数日前までの大雨の影響もあり、開催が心配されましたが、当日は天候にも恵まれ、保護者の方々の協力もあり、無事に行うことができました。

満三歳児はブルブルブルドックの曲に合わせて保護者の方と踊り、年少児はミッキーとミニニに変身して元気よく踊ることができました。年中児はバレーに挑戦し、様々な技に苦戦しながらも作り上げた大きなバレーはとても奇麗でした。幼稚園生活最後の運動会となる年長児は組体操や縄跳びに挑戦しました。はじめは上手くできないことにそれぞれが葛藤しながらも日々練習を重ね、本番は皆力を発揮でき、笑顔が見られました。年長児の頑張りを見た園児席の子どもたちも「年長さんかっこよかったね」と口にし、憧れる様子でした。

一人ひとりの成長が感じられる運動会になったように思います。保護者の皆様のご協力、温かいご声援ありがとうございました。

一人ひとりの成長が感じられる運動会になったように思います。保護者の皆様のご協力、温かいご声援ありがとうございました。



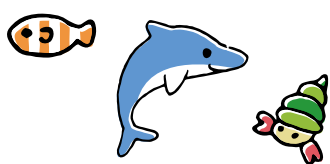
園外保育

年長児は、二日間にわけて二クラスずつ「うみの杜水族館」に行きました。行く日を楽しみにしていた子どもたちは朝から興奮気味。到着しすぐに「イルカショー」を見に行きました。迫力あるイルカのジャンプに子どもたちも大興奮！水しぶきが近くまで飛んできて大喜びでした。お昼は保護者の方が作ってくださったおにぎりを食べました。みんなでビックニック気分を味わい、わくわく感が止まりませんでした。

昼食後は水族館の中を探検開始！たくさん生き物を見つけては友達と名前を教えあったり、動きの真似をしたりと楽しいひと時を過ごすことができました。

家族の方とは、何度も行ったことがある水族館でしたが、友達同士で行くのは初めてのことで、特別感を味わい、よい思い出となりました。その後折り紙で「イルカ」を製作しました。遠足の様子を思い出しながら、ダイナミックな作品となりました。

家族の方とは、何度も行ったことがある水族館でしたが、友達同士で行くのは初めてのことで、特別感を味わい、よい思い出となりました。その後折り紙で「イルカ」を製作しました。遠足の様子を思い出しながら、ダイナミックな作品となりました。



劇

年少児、満三歳児は幼稚園で過ごす初めてのクリスマス。一人ひとりがクリスマスの意味を少しずつ理解し、みんなでイエス様を迎える心の準備をし、練習に励みました。練習を重ねるごとに子どもたちの思いは膨らみ、イエス様誕生の喜びを体全体で表現してきました。当日は、たくさんの方々に見守られ、一人ひとりが練習以上の力を発揮していました。イエス様誕生の喜びを保護者の皆様と共有できた嬉しさが子どもたちの笑顔に表れていました。

今年度の聖劇も年中児と年長児が合同で行いました。子どもたちは自分の与えられた役割について、日々考えながら役になりきって、本当のクリスマスの意味を伝えられるよう、準備に励んできました。そして迎えた当日、お家の方々に前に緊張していましたが、準備してきたことを十分に発揮し、年中・年長みんなで心を合わせて、神様からのメッセージをたくさんの方々に届けることができました。「クリスマスおめでとう！」

今年度の聖劇も年中児と年長児が合同で行いました。子どもたちは自分の与えられた役割について、日々考えながら役になりきって、本当のクリスマスの意味を伝えられるよう、準備に励んできました。そして迎えた当日、お家の方々に前に緊張していましたが、準備してきたことを十分に発揮し、年中・年長みんなで心を合わせて、神様からのメッセージをたくさんの方々に届けることができました。「クリスマスおめでとう！」



幼稚園生活を振り返って

高橋美智子

初めての園生活ももうすぐ卒園を迎えようとしています。マリア組に入園した当初は「行きたくない」と泣いてしまいう毎日でした。親子ともに不安と葛藤の日々だった頃を懐かしく感じます。慣れない集団生活と、同時期に娘の持病が見つかったことも影響していたと思います。

そんな娘も今では「○○ちゃん、○○先生と遊んだよ。今日も楽しかった」と嬉しそうに話してくれます。

幼稚園最後の聖劇では、緊張しながらも堂々と役に取り組み姿に目頭が熱くなり、娘はもちろんのこと、一緒に過ごしてきたお友達の成長も感じ、驚きと感動の素敵なステージでした。

縦割りクラスでの関わりとおして優しさ、思いやりが身についたことや、お仕事を通して得られた達成感により集中力が身に付き、経験するすべてのことが成長、自信に繋がります。少し先の未来に繋がっていると実感します。

結びに、コロナ禍の大変な中でも子どもにも温かく寄り添い、見守ってくださった先生方、お友達のお陰で実りある園生活を過ごすことができました。本当にありがとうございました。



北仙台幼稚園

発表会

年少

子どもたちの大好きな「てぶくろ」の絵本をもとにした劇を行いました。
おじいさん・おばあさんと動物たちに変身して「手袋のなかにいれて」「いいよ」という掛け合いを楽しみながら演じました。登場する動物や動物の登場曲の歌詞はみんなで意見を出し合いながら決定し、北仙台幼稚園のオリジナルの「てぶくろ」が出来ました。

練習では、物語を思い出しながら歌やセリフを覚え、元気づけ合いに表現する姿が見られました。

本番では初めての発表会で大勢の保護者の皆様の前に立つという事で緊張してソワソワしている姿も見られましたが、四十五人全員で素敵な劇を行うことができました。劇の最後に保護者の皆様から頂いた大きな拍手が子どもたちにも届き、大きな達成感を感じていました。

発表会を通してクラスの枠を越えて友だちの輪が広がり、相手を思いやる言動が増えました。進級の期待を胸にお友だちと楽しく過ごしている年少児です。

年中

今年は「ハーメルンの笛吹き」の劇を四十一人全員で行いました。劇の導入を行った際、「約束を破るとどうなるのか」「約束を守ることの大切さ」をみんなで知るいい機会となりました。また、このお話は少し怖いところがあり、原作を少しアレンジした内容になりました。

役決めでは、やりたい役が多くなかなか決まらなかったり、友達と譲り合いをしあつたりする姿も見られ、年少の頃から成長した子どもたちの姿も見ることができました。練習では、前半グループと後半グループの二チームに分かれてセリフや歌などを行いました。全体練習が始まると、友だちがどんな風に演じているのか、気になる様子も見られ、楽しんで練習に臨んでいるようでした。また、本番が近くなると、友だちのセリフや移動するタイミングまでも覚えてしまつ子どもたちの姿もありました。発表会本番では、緊張しながらも、自信をもつて最後まで頑張ることができました。発表会活動を通して、年中児同士の関わりも多く見られるようになりました。

年長

年長児は「いちばんはじめのクリスマス」イエス様のご誕生について先輩たちの聖劇を見てきて、憧れの気持ちがあり自分になりたい役を決めていた子どももいました。役決めを進める中で全員が希望通りの役になることはできませんでしたが、どの役でも大切な役であることと理解し、一生懸命取り組む姿が印象的でした。時には、難しいセリフや歌に苦戦する姿も見られましたが、自主練習や友達同士で練習を率先して行い、いつの間にか他の友達とセリフや歌も覚える姿も見られるようになりました。本番では緊張している様子でしたが、自分の役に誇りを持って大切に演じていました。またその姿を保護者の方に見ていただき、大きな自信につながったことでしょう。

発表会の練習を通して責任を持って最後までやり遂げること。そして自分のことだけでなく相手を思いやり協力する大切さを学んだ年長児。その後も意欲的に何にでも取り組み、成長を感じています。



★節分・豆まき★

二月三日に豆まきを行いました。コロナウィルスの影響もあり、全員でホールに集まることはできませんでしたが、クラスごとに実施しました。

ホールに集まるとまずは節分とはどんな日なのか、どうして豆まきをするのかという話をみんなで聞きました。子どもたちに問いかけると知っていることをみんなに教えてくれました。

「おにはそと！ふくはうちー」と掛け声の練習をしているところに鬼がやってくる子どもたちはびっくり！驚きながらも練習を思い出し、鬼に向かって生懸命に豆を投げていました。鬼が怖くて泣いてしまつ子や必死に豆を投げて退治しようとする子、走り回って鬼から逃げる子もいました。友達と一緒に勇気を出して鬼に立ち向かうことで鬼を退治することができました。みんなが一年を健康に過ごすことができました。



★クリスマス礼拝会★

クリスマスに向けて、待降節の間お祈りを通して、世界には病気が貧困で苦しんでいる人がいることや災害や戦争で悲しい思いをしている人がいること、環境問題について等、周りで起こっている様々なことを知りました。その中で自分のことだけでなく、何かできる良い行いはないかを考え日々過ごしてきました。

またイエス様に優しい心をプレゼントしようとして進んで良いことをして心の花束に取り組み姿が見られました。

クリスマス礼拝会当日は、心の花束と献金をお捧げすることができました。また神父様から人ひとり祝福をして頂きました。クリスマスを通して周りのことに目を向けられる良い機会になりました。子どもたちの優しい気持ちや思いが届きますように。



★キッズプレイデー★

十月十九日にキッズプレイデーを行いました。北仙台幼稚園の年長児と年中児が、未就園児の子どもたちと楽しんで参加していました。元気に「さんさん体操」を踊ってから各ゲームコーナーに移動しました。

「目玉は「シャボン玉コーナー」です。普段使うシャボン玉のほかに、大きなシャボン玉もあり、子どもたちはびっくり！大きなシャボン玉を作る名人も誕生しました。

二つ目は「ぬりぬりお面コーナー」です。子どもたちの大好きなキャラクターがたくさんあり、どれにしようか迷ってしまう子どもたち。完成したお面を被って、キャラクターになりきる子どもも見られました。

三つ目は「スライムコーナー」です。好きな色を選んで、魔法の水を入れて混ぜると、スライムの完成！どこまで伸びるか友だちと仲良く競争する子どももいました。

最後に、キッズプレイデーに来てくれた未就園児に年長児からプレゼントがありました。友だちと楽しく過ごした日でした。



小 学 校

学芸会

二年ぶりの学芸会となりました。コロナ禍ではありましたが、感染対策を十分に行いながら実施しました。どの学年も団結し、素晴らしい劇やダンス、合奏を披露してくれました。一年生にとっては初めての学芸会、どんなことを感じながら過ごしたのでしょうか。

一年 小林 若葉

一年生は、「ヤドカリくんのおうちをさがそう!」というげきをしました。れんしゅうでは、みぶり手ぶりをつけてえんぎをするのがむずかしかったです。でも、みんなでいっぱいれんしゅうをつみかさねて、だんだん上手になりました。本ばんまえにともちと、「がんばろうね。」とえをかけたあいました。

本ばんでは、みんなれんしゅうでしてきたことのせいかを出しました。本ばんがおわると、みんな「よかったよ!」といいました。はじめてのげきだったけど、みんなで上手にできてよかったとおもいました。



一年 大泉 凜華

わたしは、「ヤドカリくんのおうちをさがそう!」で、なみの子九のやくでした。れんしゅうでは、うごきやことはまちがえてしまったけど、本ばんではまちがえなくてほっとしました。

本ばんがおわってかえると、おかあさんとおうさんに

「よくがんばったね。」

と、ほめてもらってうれしかったです。

じぶんでも、せいちょうしたなとおもったことは、ウミウシとぶつかりそうになるシーンで、ほんとうにぶつかりそうになることが、よくできたとおもいます。はじめはきんちょうしたけれど、せいちょうしたところをかぞくに見せたかったの、がんばりました。二年生でも、ダンスのはつぴょうをがんばろうとおもいました。

一年 菊池 英仁

ぼくは、カニのやくでした。はさがあつたので、ヤドカリの貝をもちにくかったです。れんしゅうでは、さいしよはできなかったけど、だんだんできてきました。まちがったり、せりふがおそくなったりしたけど、くじけずにがんばって、どんだんせいちょうして、あつというまになん日もすきていました。

本ばんは、すこしドキドキしたけど、なかまがいたので、だいじょうぶでした。たのしみにしていた学ばいかなので、よいえんぎができてよかったです。

おわったら、おかあさんに「すごくよかったよ。」といわれてうれしかったです。

二年生の学ばいはいはダンスなので、ダンスもがんばりたいとおもいます。

修学旅行での学び(震災学習)

六年間の集大成である修学旅行。当初は九月の予定が、十月に延期に。今年度も南三陸方面に行き、震災学習を通して多くの大切な事を学び、充実した二泊三日の修学旅行を無事に終えることができました。

《あの日から失われたもの》

《これからの行動について》

六年 増田 悠人

僕は、この修学旅行を終えて、「命」とは一度きりのもので、失ったら終わりだということを知りました。以前、事前指導で、「命」とは何かについて考えた時には、僕は「たつた一つだけ与えられたもの」と考えていました。この震災学習を通して、僕はその考えに、「失ったら終わりだ」ということを付け足しました。なぜなら、語り部バスの伊藤さんがおっしゃっていた切実で悲壮感のあるこの言葉に共感したからです。

「命は一度失ったら、終わりなんです。同じような仲間と、地域と、もう過ごせなくなるんです。でも、自然災害はきちんと対策すれば人の命までは奪いません。だから皆さん、本当に少しの意識と努力で良いので対策をしてください。」

東日本大震災では、判断のミスによって命が失われました。対策、話し合いをすることで、災害が起きた時にあせらなくてすみます。あせらなければ、冷静に判断することができず、冷静な判断ができれば、命を守ることができず。つまり、対策をすれば、自然災害から命を守るができるのです。

だから僕は、ハザードマップを確認したり、避難場所や対応、連絡の取り方などを話し合ったりして、災害時に冷静な行動ができるようにして、命を守りたいです。また、その土地について学び、大川小のような悲劇を起こさないようにしたいです。

この修学旅行で、このように命の大切さや防災について学んできました。たつた一つの命を守るために、しっかりと対策をしたいです。また、自分も相手もたつた一つの命を授かっているの、相手の命を大切に、いつも友達と何かができることに感謝したいです。

《一番大切なこと》

六年 川島 聡一郎

僕はこの修学旅行を通して、命を守ることも大切だが、それと同じくらいに守り切った命を守り続けることが大切だと思いました。

また、前もつた対策や冷静な判断で救える命があると知り、「守れなかつた命」にするのではなく、「守れた命」にすることが大切だと知りました。しかし、たとえどれだけ頑張ったとしても救えなかつた命もあつたのかもしれません。それでも、だからといって諦めるのではなく、たとえなんとなく無理だと分かつたとしても、



も、最期の一秒まで前向き、自分にできることを精一杯やり続け、誰かのためになることをすることが大切だと思ひました。

《震災学習をして》

六年 廣瀬 華

私は、六年間の集大成である修学旅行で、東日本大震災がどれほど多くの被害を与えたのか、また、どれほど多くの人に恐怖を感じさせたのか、実際に震災遺構である大川小学校を見て、語り部の方のお話を聞いてみたいと思ひていました。何故かという、私が住んでいる場所の近くで何があつたのか、今はどうなつていのかを体感したいと思ひていたので、

大川伝承の会の語り部、三条すみゑさんと語り部バスの伊藤さんの二人が繰り返し共通して



言っていたことは、『自分自身の「判断」と「行動」で命を守らなければいけない』ということことです。東日本大震災では、一つの判断で多くの命を失ったり、救ったりすることがあり、判断の重要さを知りました。その一つの例として、大川小学校と戸倉小学校の被害の違いです。戸倉小は、大川小と比べ人数も多かったにもかかわらず、全員逃げることでできたのは校長先生が地元先生の意見を取り入れ、また咄嗟の判断ができたからだだと思います。また、私は地元の先生が言われてきた「津波のときは高台に登る」というのは、昔の人達の経験から伝えられてきた言葉だと思うので、私は東日本大震災のことを後世に伝えていくと共に、命の危険があるようなときでも、冷静に判断ができるような人になりたいと思いました。



三年生のうちにできること

二〇二二年を迎え、三年生も残り三か月というところで、これまでのことをふり返ってみました。自分の成長に気付く中で、さらにがんばりたいことが見えてきました。

残りの三か月をどうすごすか

三年 山影 恒太

三年生も、残り三か月で終わりです。ぼくは、その三か月の目ひようを考えました。

生活面では、「人の話を注意深く聞く」という事を目ひようにしました。去年は、話を注意深く気かずに、聞き流してしまっていたことがあり、そのせいでミスをしてしまっていました。だから、この残り三か月というよいタイミングで、この目ひようをたてました。

勉強面では、「分からない問題はきそから積み

上げる」を目ひようにしました。去年は、むずかしいレベルの問題からやっていました。そのためなかなか分かるようになりませんでした。でも、ある本を読んで、「かんたんな問題から着実にやっていく事」を知りました。そのことを信じて、勉強をがんばろうと決めました。

二〇二二年のぼくは、これらのことを意識しきして、いろいろなことに取り組んでいきたいと思っています。

四年生に向かって

三年 鈴木 陽大

三年生の始めのころは、理科って何だろう、社会ってなんだろう、と思っていたのですが、今は理科と社会がすきになりました。そしてさしい近は、なぜ？を見つけることができるようになってきました。

家では、おふろそうじやお皿ふき、せんたく物ほしなどのお手伝いを頑張っています。

令和四年の目ひようは、「時間を守る」です。なぜこの目ひようにしたかというと、四年生になるにあたって、「時間を守れたらカッコいいかな」と思ったからです。ぼくはこの目ひようを意しきして、カッコいい四年生になれたらいいなと思っています。ぼくはがんばります。

二〇二二年と二〇二三年

三年 角田 理緒

私が三年生の始めのころとくらべてちがうなあとと思うところは、周りのことに目配り気配りができるようになったことです。前は自分のことでせいっぱいだったのですが、少しよゆうができて、今はまわりの様子を見て友達の手助けをすることができるようになりました。

二つ目は、算数などの勉強で、自分の意見を言えるようになった事です。前は、じゅ業の中でよく分からなかったり、なっとくできていな

かったりした所もあったけれど、今はよく理かいてできるようになりました。

三つ目は、作文を書くことが好きになった事です。説明の文しようななど、そのお題について調べ、それを発表できるのはおもしろいと気づきました。

三年生のこの三か月間、楽しんでいます。そして、支えてくださった先生方に感しやしいです。

合唱団 全国大会を終えて

全国大会の宝物

昨年度の中止を受け、出場できなかった卒業生の想いを受け継ぎ、全国大会へ出場した合唱団。素晴らしい歌声を響かせ、見事全国大会で金賞を受賞しました。

五年 室谷 健人

全国大会はとても楽しく、六年生とのラストのコンクールでしっかりと歌いきることができた。また、遠征の道中や、ステージの本番、様々な経験を通し、気付くことも多くあった。

その中で、強く印象に残ったことは、今大会で最優秀を受賞した学校の演奏を会場で鑑賞したことだ。とても響く声でびたり揃っていて、パワーが強く、でもそれは決して喉押しではなく、本当に良い演奏だった。一人ひとりの目力がすくく、自分達で音楽を作り上げていく気持ち（情熱）が伝わってきて、憧れる演奏であった。

でも、それを憧れで終わらせたくはない。自分達も憧れられる様な存在を目指し、誰かにつくらされる音楽ではなく、自分達で音楽をつくりあげていきたいと、僕は思う。

そのために、四つの心【好奇心、素直な心、向上心、感謝の心】をこれからの練習で大切にしていきたい。

一つ目は好奇心。僕は、今回歌った自由曲

が、最初の頃よりも好きになった。歌詞の意味を考え、歌う気持ちを想像し、音楽の強弱などの記号を、作曲者の気持ちになつて考える。曲に対して好奇心をもつと、その曲がもっと好きになり、自分達らしく表現できる様になる。

二つ目は、素直な心。お忙しい中、ドミニコ合唱団のために特別にレッスンして下さる先生がいる。その先生は、今まで気づかなかったことと、いろいろな学びを教えて下さる。それらを素直に受け止めなければ、自分の歌声に向き合えない。自分の歌声に向き合つてこそ、初めて成長できる。

三つ目は、向上心。三、四年生の中には、今回歌えない部分があった人も多い。音がとれず上級生と声を揃えることの難しさは、僕も経験しているので、よく分かる。でも、ステージで先輩達と同じエネルギーで歌えることの気持ちよさを知ったら、何があっても全部の音を確実にしして、歌えない部分をなくしたいと思うだろう。みんなが上手になりたいと向上心をもつて、あきらめずに練習していきたい。

四つ目は、感謝の心。僕を今の歌声まで成長させてくれた先輩方、いつも一緒に歌う仲間、応援して下さい下さるすべての方々がいたから、全国ステージに立つことができた。たくさんの支えのおかげで歌えていることの感謝を、僕は忘れてはいけない。

この四つの心を胸に、自分達の目指す音楽に向かつて、一生懸命に練習し、成長していきたい。



中 学 校

卒業していく中学三年生の皆さんへ

中学校主任 成毛 祥代



三年生の皆さん、御卒業おめでとうございませう。毎年クラスのカラーが大きく違う事に驚きますが、今年もとても個性的なメンバーでした。

心音さん、英語はあなたには大変嫌われていたと思うけど、最後はとても頑張りました。レナさん、頼られるのは大変だったと思いますが、それでも頑張ろうとする姿が立派でした。景衣さんは剣道も勉強も頑張ろうと決めて、それを実践していました。瞳さん、中一の頃、隣で一緒に給食を食べていた時のあなたのお話はとても楽しかったです。マイペースなのどかさんは、何事もコツコツ努力するタイプでした。香織さんは、最後はしっかりと自分の進みたい道を見つけて才能を開花させました。優佳子さん、あなたは色々な事によく気の付くお姉さんタイプの人でした。愛依子さんも、最後は部活も勉強も両立させてどちらも立派な成績を収めていました。綾さん、あなたは皆に尊敬される知識の持ち主でした。そして楓さん、勉強にも部活もよく頑張つて色々な事に挑戦しましたね。

それぞれの将来に幸あれ！

卒業されるみなさんへ

三年A組 担任 Sr竹内 美由紀



三年A組のみなさんにお勧めしたいこと、それは「どうぞ自分にうぬぼれて生きて下さい」ということです。私は自他共

に認める根拠のない自信のあるタイプなのですが、なぜこんなふうになったのかといえは、それは父の影響です。父は引つ込み思案だった幼い私に、事あるごとに「みんな同じ脳ミソをもらっているのだから考えればできるはずだ。とにかくやってみなさい」と言うのでした。試行錯誤しながらも何となくできたという体験が積み重なり、根拠のない自信を持つ私が形成されたようです。それから十数年後、「人間はみな、神様がおつくりになった最高傑作なのだ」と何かの本で読んだのですが、かつての父の勧めは正しかったのだ、と確信しました。

そうです、私たちは神様の最高傑作なのです。ですから、まずは自分でやってみる、できなければ周りの人たちに助けや教えを乞い、また忠告してくれる人がいれば謙虚にそれを聴き、自信をもつていろいろなことに挑戦していってほしいと思います。楽しい一年間をありがとう。

一年間を振り返って

一年A組 岩間 唯愛



私が中学生になって、初めて過ごした一年間を振り返ると、とても充実しており、良いスタートを切れたと感じました。入学してすぐの頃は、クラスの皆と仲良くできるか不安でしたが、たくさんのお話や作業をするなかで、団結力が高まり、今は信頼しあえる仲になったと思います。

そして私は、今年、生徒会執行部の庶務になりました。立候補した理由は、先生にすめられたからですが、前から先輩達が活動しているのを見て、すてきなと思い興味を持っていました。とくに印象に残っている事は、対面式のとき制服の着かたなどのルール説明の時です。先輩方が、皆で協力して伝え

ようという意思が伝わってきました。その頃から少しですが、生徒会に入ってみたくという気持ちがありました。しかし私は人前で発表することが苦手で、あまり勇気がでませんでした。先生がすすめてくれたお陰で勇気がでて立候補しようと思えました。

これからも生徒会のメンバーと自覚を持って生活していきたいと思います。

一年間を振り返って

二年A組 江口 陽向



「どんな一年間でしたか？」僕がそう質問されたら、「楽しかったです!!」と即答するでしょう。

僕は、毎日学校へ行くのが楽しいです。友達に会って話し、部活動や授業を受けることは当たり前のことですが、僕にとってそれはとても貴重なことであり、中でもクラスメイトとの出会いは、とても大切にしたい事柄です。特に、今年は教室に男子生徒が増え、四人になりました。とても嬉しく心強いことでした。クラスの仲間とは、楽しいこともあれば、問題をクリアしないといけないときもあります。どんな時も、どんなことにも向き合いながら、絆を深めていきたいと考えています。

絆といえは、僕は中学校・高校合同運動会が思いに残っています。昨年は、コロナ禍で中止になり残念な思いをしましたが、今年を実施することができ、中学校初の総合優勝ができたのも嬉しかったです。勝利したい気持ちが一一致団結し、優勝できたのだと思います。

毎日があつという間に過ぎ、二年生も気づけば間もなく終わります。これからも仲間を大切にし、充実した学校生活を送りたいです。

活躍するドミニコ生

【聖ドミニコ学院高等学校】

○ 全国書画展覧会運営委員会主催 第四十三回ふれあい書道展「筆の部」

奨励賞 2年 遠藤 彩月 特選 1年 佐藤 桃香

2年 大槻 穂菜美

○ 第四十回 記念マージングバンド・パントフーリング宮城県大会

優秀賞 3年 浅野 優里 3年 佐藤 由菜

○ 第四十三回 仙台市私立立高高等学校女子バレーボール秋季大会

レシーブ賞 3年 吉田 芽良

○ 第四十二回 仙台市民総合体育大会バレーボール

Bブロックトーナメント

第1位 パレーボール部

○ 第五十回 マーチングバンド・パントフーリング東北大会

金賞 パントフーリング部

○ 第四十回 宮城県高等学校放送コンテスト新人大会

ラジオキャンペーン部門

奨励賞 放送部

○ 令和三年度 宮城県高等学校新人大会剣道競技女子

功労賞 3年 坂本 楓 第1位 2年 山下 紗知

○ 第二回 ビクトリーカップ高等学校女子バレーボール交流大会

準優勝 2年 森島 夢来

○ 第十回 創作絵本・デジタル絵本・紙芝居コンテスト

学校賞 特別賞 3年 三浦 光月

○ 令和三年度 校内読書感想文コンクール

優秀賞 1年 本木 菜々 2年 山下 紗知

佳作 1年 三村 紅葉 2年 森岡 咲紀

○ GTEC検定版優秀賞(トリカススコア1122)

3年 ラザロ マリア イーシャ ベネッテ

○ 第一回 パソコン検定合格

4級 3年 佐々木 潤羽 2年 黒井 唯名

○ 令和三年度 第一回日本漢字能力検定試験

3級 3年 坂本 志穂 3年 佐藤 美咲

2年 遠藤 彩月

○ 二〇二二年七月度 日本数学検定協会実用数学技能検定

準2級 3年 石澤 佳乃

○ ビジネス能力検定(B級)ジョブパス試験

3級 3年 齋藤 若菜 3年 日野陽奈多

○ 二〇二二年第四十一回 家庭科保育技術検定

1級 3年 大友 遥香

2級 3年 猪股 葵 3年 黒沼 萌

3級 3年 笹浦 志優 3年 寺川 幸来

2年 伊藤 那奈 2年 内山 清彩

2年 齋藤 那奈 2年 菅原 千枝

2年 菅原 千枝 2年 増子 美咲

2年 森岡 咲紀 2年 和氣 愛奈

2年 伊藤 那奈 2年 内山 清彩

2年 齋藤 那奈 2年 菅原 小葉

2年 齋藤 那奈 2年 菅原 小葉

2年 齋藤 那奈 2年 菅原 小葉

2年 齋藤 那奈 2年 菅原 小葉

2年 齋藤 那奈 2年 菅原 小葉

2年 齋藤 那奈 2年 菅原 小葉

2年 齋藤 那奈 2年 菅原 小葉

2年 齋藤 那奈 2年 菅原 小葉

2年 齋藤 那奈 2年 菅原 小葉

2年 齋藤 那奈 2年 菅原 小葉

2年 齋藤 那奈 2年 菅原 小葉

2年 齋藤 那奈 2年 菅原 小葉

2年 齋藤 那奈 2年 菅原 小葉

2年 齋藤 那奈 2年 菅原 小葉

2年 齋藤 那奈 2年 菅原 小葉

2年 齋藤 那奈 2年 菅原 小葉

2年 齋藤 那奈 2年 菅原 小葉

高等学校

卒業に寄せて

第三学年主任 高橋 純子

久しぶりに卒業生を送り出す。



先日、書類を整理していると、懐かしい名前が並ぶ第四十八回卒業証書授与式の次第が出てきた。三年間、学年主任をした生徒たちだ。今年は第六十回にあたるので、十二年ぶりに卒業生を送り出すことになる。

話はさらに遡るが、私がドミニコ学院で初めて担任をしたのは三年生だった。そして初めて送り出す卒業生でもあった。初めてづくしの私を支えてくれたのは、他でもない三年五組、四十五人の生徒たち。狭い教室にひしめき、お世辞にも恵まれた環境とは言えなかったが、生徒たちは充実した高校生活を送り、笑顔と涙の中、卒業していった。私にとって特別なクラスだ。今の学年とは三年間、共に歩んできた。コロナに振り回された高校生活とも言えるが、生徒たちは思いの外たくましく過ごしてきたと感じる。様々な制約がある中でも諦めずに工夫しながら活動する姿は頼もしいものだった。できれば辛いこと、苦しいこと、悲しいことは経験させたくないと思うが、その経験が未来を支えてくれることは多い。どんな状況下であつても、マイナスをプラスに変えていく強さと二人三脚で、卒業後もたくましく生きていてほしい。

私にとって、最後に送り出すことになるであろう六十四名は、初めて送り出した卒業生同様かけがえのない存在だ。卒業おめでとう。

グッド・バイ

三年一組担任 阿部 博子



春は名をみの風の寒さ。立春を過ぎ、暦の上では Spring has come. yet は時ぞと思ふあやにく、仙台は寒い。底冷えのする教室、廊下、職員室。どこにいて

も、寒い。天空では低気圧と高気圧が行ったり来たり、南風が過ぎれば北風が吹き荒れる。いかにせよとの、この頃か。春に出会った子どもたちが、春に去っていきます。門出の時とはいえ、惜別の情を禁じ得ません。先生たちからの愛情に宿題に無理難題をたふり注がれ、引き締まった大人の顔になりました。COVID19の嵐にも巻き込まれましたね。壁をひとつひとつ乗り越え、自分の殻を破り、大きく成長してきました。その軌跡はサクセスノートに刻まれているはず。Independently、特進コースで知らず知らずのうちに身につけてきたレジリエンスは、必ずや皆さんの人生を支え、未来を切り拓く底力となることでしょう。花に嵐のたとえもあつてさよならだけが人生かも知れませんが、You must believe in Spring and love. 巡り来るいずれかの春に皆さんが笑顔で再会できますように。

餞

三年二組担任 小野寺 原



●社会は、『お金を払ってくれる人』には優しいが、『支払わなければならない人』には厳しい。自由をどう満喫するか、社会に出るまで何を身に付けるか模索するのが学生時代。●コミュニケーションは「自分と他者は違うのだ」ということを起点とする。●多様性を受け容れると言葉でいうのは簡単だが、実践する覚悟と努力があるかが大切。●「友達」は貴方の一生で数人いればよい。ある程度の距離と時間と空間のズレを許容し合える友達である方がよい。数少なくても、「貴方の未来の友達に出会う長い旅」と人生を思えば、生きることにもまた楽しい。●友達をあてにし過ぎないように。人はそれぞれの人生を背負っている。誰も他者にかまう余裕はない。助言を謙虚に頂いても、最後に判断を下すのは貴方。貴方の道は貴方だけでしか行けない。●だから「孤独」の時間を大切に。独りで様々な出来事を貴方なりに味わい、考え、決断する。そして時に改めて人々とともにいる喜びを思い巡らす、そんな時間を大切に。●想像力が人生を豊かにし、時に貴方を救う。いつも手元に本がある人生を。たくさん本と映画を観て、人生の真実の断片を拾い集めてください。●身を起こるあらゆることに

出会いを大切に

三年三組担任 前田 朱美



卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。四月から新しい生活が待っていますね。自分で選んだ進路です。期待も大きいことでしょう。慣れない環境で苦労することもあると思いますが、どんな時も希望を持って誠実な対応をし、困難を乗り越えましょう。ドミニコ学院で頑張ってきた皆さんにはできると思っています。

四月から小さなことにまず取り組んでみませんか。例えば、学校や職場で顔を合わせた人自分から挨拶をしてみる、などです。特に学生はほとんどの人が早く友人を作りたいと思っています。声をかけたその人が大切な友人になるかもしれません。私が大学で部活動見学偶然一緒に行った友人は三十五年が経った今も連絡を取り合っています。就職、子育て、思わぬ体調不良、生活環境の変化等、様々なことが起こる中でこれから知り合う人たちがきつと支えになってくれるはず。そのような出会いが皆さんにあることを願っています。

「自らの道を歩み続ける限り」

三年四組担任 戸田 兼博



皆さん、ご卒業おめでとうございます。私は、今年度から四組の担任として過ごさせてもらいました。今まで接点がほとんどなく、皆さんの高校生活最後の年に、生活面や進路面の指導がどこまでできるかと期待と不安を抱きながらスタート切ったのを覚えています。個性派集団のクラスではありますが、各自やるべきことを自覚し、周りと距離を保ちながら生活していく姿は目を見張るものがあります。運動会・ドミニコ祭・球技大会などのイベントでは、いつも以上の団結で素晴らしい結果を取めたことも担任として誇らしく思います。

これから、皆さんは各自の道を歩むわけですが、たくさんの人と出会い、交流し、学んでいくことでしょう。一步一步ゆっくりでいいので進んでください。歩みを止めないでください。たくさんさんの失敗をしてください。長い先に、皆さんの経験が将来を明るくするものになってくるのだから。これから皆さんが、今まで学んだ事とこれから学ぶ事を活かして、更なる飛躍とご健康をお祈りしています。

ドミニコ学院での三年間

三年三組 寺川 幸来



ドミニコ学院での三年間で、私はさまざまな経験や学びを得ることができました。この三年間で多くの人と出会ったからこそ、今の自分があるのだと断言することができそうです。そして、支えてくださった方々には感謝の気持ちでいっぱいです。

ドミニコでの三年間で得たことは「前向きに考えること」「最後までやりきること」です。この三年間はコロナの影響を大きく受けましたが、落ち込んでしまいうような毎日でも、前向きに考えることで目標を見失わず、頑張ることができました。そのことが最後までやりきることにつながったと思っています。そして、一番大きかったのが「仲間」の存在です。特に部活動で強く感じました。同じ目標に向かい、切磋琢磨しながら同じ時間を共有できた仲間は、私にとって何ものにも代えがたい大切な存在です。ドミニコでバレーボールができたことを心から誇りに思っています。

今できていることが当たり前と思わず、常に周りの人への感謝の気持ちを持ちながら、これからも夢に向かって進んでいきます。



各コースの1年を振り返って

「コロナ禍で 変化したこと」

特別進学コースリーダー

小野寺 達也

一昨年度の三月に新型コロナウイルスの影響による全国一斉休校から二年が経ち「時が経つのは早いな」と感じ、その一方で、未だにコロナ禍と呼ばれる現状に不安を感じています。このコロナ禍を乗り切るために本校で大きく進んだこととして全館Wi-Fi化やタブレット端末の使用といったICT機器の活用が挙げられます。

今年度は教員作成のスライドを用いた授業展開だけではなく、Microsoft TeamsやGoogle Classroomを活用した協働作業をする場面が総合的な探究の時間でのSDG(持続可能な開発目標)の探究やそのまとめ作業・プレゼン、あるいは日々の授業の中で自分の考えを発表する機会に展開されるようになりました。また、以前から活用していたスタディアプリ(株式会社リクルート)や夢ナビプログラム(株式会社プロムページ)においても教室にないながらタブレット端末を用いた活用が可能となり、より効率的な学習や進路探究活動が行えるようになりました。

引き続き特進コースでは、コロナ禍で受験と戦う生徒たちをサポートしていきたいと考えています。



二期期の幼児保育進学コースについて

幼児保育進学コースリーダー

佐藤 正久

新型コロナウイルスが落ち着きを見せたおかげで、本コースの活動も本来予定していたプログラムをはは実施できるようになってきました。十月初旬に行われた本学院系列の角五郎及び北仙台幼稚園運動会のボランティアとして十一名の生徒が参加したのを皮切りに、十月下旬の北仙台幼稚園一日

入園キッズブレイダーには十名、十二月下旬の角五郎幼稚園冬休みお預かり保育には十二名の生徒がボランティアとして参加しました。

その他、保育技術検定(級)四級に多くの生徒が挑戦したり、三年生が学校設定科目「絵画と造形」で製作した紙芝居を十二月に角五郎幼稚園の前で読み聞かせを行いました。それぞれの進路目標もほぼ達成つある三年生は、これと並行して三年間のピアノレッスンの成果を十二月の発表会(二年生は三月に実施)で存分に披露し、校長先生をはじめとする観客の先生方から高い評価をいただきました。各学年の生徒それぞれによります。

今年度の総合進学コースでは、春と秋の二回、一二年生を対象に「高大連携授業」を企画し、二回目は十月二十二日(金)の六・七校時に実施いたしました。

秋の「高大連携授業」

総合進学コースリーダー

伊藤 崇

今回は、講師として宮城学院女子大学教育学部教育学科健康教育専攻教授の門間典子先生に御来校いただき「職業としての看護士の仕事」という内容で授業を行っていただきました。

生徒達は、看護の歴史や日本の健康をめぐる現状、そして患者を取り巻く医療の変化と看護士の業務内容について、くわしく学びました。特に、二十年前の医療では病気が病院で治すものであったが現在の医療では病気を抱えて生きる患者中心の医療となっていること、そして医療行為とはチームで行うものでありそうしたチームのあらゆる部門を結びつけるキーパーソンが看護士なのではないか、ということについて、看護士希望者はもちろんのこと、それ以外の生徒達も感慨深く聞き入っていました。



進路実現に向けて キャリアデザインコースリーダー

及川 俊浩

コロナウイルスの猛威が去らない状況でも三年生は今年度も進路実現に向けて、それぞれが努力していく姿が見られました。就職希望者は毎年九月の第一土曜日に外部講師による模擬面接を実施しています。今年度も九月四日に四名の講師をお迎えして行いました。もちろん感染対策を行った上での実施となりました。

今年の三年生、一年次の三月から二年次の五月にかけて休校措置のため登校できず、授業再開後も感染対策により通常の学校行事の大幅な見直し、特に修学旅行の中止に關しては様々な体験を通じた学びを行うことが出来なかつたことは進路実現に向けた活動にも少なからず影響が見られたように感じました。

そのようなハンデがあつたからこそ、模擬面接は自分を見つめ直す良い機会となり、その後の就職試験本番に十分に活かすことが出来たと感じています。



新設 二〇二二年度より 未来探究進学コース

(定員 女子六十名)

これからの社会を考えていく上で、特に大切となる三つの分野についての学びを中心に、それぞれの学びについて探究活動を取り入れていきます。この探究活動はそれぞれの分野での入口であり、高校時代に気付き、見つけたものをさらに深めることができるよう、上級学校での学びに繋がります。

るように三年間のカリキュラムが組まれています。高校での学びを次に繋げることにしています。主に地元の大学への進学を中心に考え、地元のことを考え、いずれは宮城から日本や世界を見ることが出来る人材の育成、その第一歩となることを期待しています。

一、子ども教育系
変化する社会の中で活躍していく人材の育成は大切なことです。特にはじめの一歩となる初等教育・幼稚園・保育所・小学校は今後ますます重要になってくると思われれます。ここでは、それぞれが「初等教育に携わっていくために何が必要であるか」を考える第一歩となるような学びを通して、次のステップに繋げていくことを大切にしていきます。

二、国際探究系
地球規模で、人やモノ、カネや情報などが相互に移動したり、関係し合っている現在の社会で、広い視野に立ったものの見方・考え方が出来るようになることが今後ますます重要になってくると思われれます。この系では語学のみならず、異文化交流のために必要となる知識も得ながら、「グローバル化が進展していく社会でどのように関わっていくことが出来るか」を考える第一歩となるような学びを通して、次のステップに繋げていくことを大切にしていきます。

三、情報系

パソコンやスマートフォンが手元にある、簡単に情報が得られたり、買い物もできる時代になってきました。AI、ビックデータはこれからの社会を大きく変え、今後ますますこの分野の発展が見込まれます。情報化社会の進展とその変化に対応していくためには、対応することが出来る知識やその活用が今後ますます重要になってくると思われれます。情報端末の使い方のみならず、必要となるリテラシー(知識・技能)などを学び、「どのように活用していくことが出来れば生活が豊かになるのか」を考える第一歩となる次のステップに繋げていくことを大切にしていきます。

令和四年三月卒業生の進路状況

(令和4年2月18日現在)

【大学合格者】(21名)

宮城学院女子大学(3)・東北学院大学(5)・東北福祉大学(2)・尚絅学院大学(3)・東北文化学園大学・東北工業大学・仙台大学・三育学院大学・文教学院大学・医療創生大学・日本社会事業大学(2)

【短期大学合格者】(11名)

上智大学短期大学部(2)・仙台青葉学院短期大学(5)・聖和学園短期大学(3)・仙台赤門短期大学(1)

【看護学校合格者】(1名)

葵会仙台看護専門学校

【専修学校合格者】(13名)

仙台こども専門学校(3)・仙台医健スポーツ専門学校・SENDAI中央美容美容専門学校・仙台医療秘書福祉専門学校・仙台ECO動物海洋専門学校・仙台接骨医専門学校・仙台理容美容専門学校・東北文化学園専門学校・宮城高等歯科衛生学院専門学校・宮城文化服装専門学校・首都医療専門学校

【その他】(1名)

劇団わらび座養成所

【就職内定者】(4名)

社会福祉法人千賀の浦福祉会・ワタキューセイモア株式会社・ヤマト運輸株式会社・株式会社パラマウント

私立で学ぶということ

小学校校長 土井 智子



本校が加盟している日本私立小学校連合会は、今年で結成八十一年になります。太平洋戦争前後、日本の初等教育が国民学校に統一され、すべての私立小学校が閉鎖される危機にあった中、時の私立小学校の理事長・校長が私学の灯を絶やさんと集まり、連合会をつくったとあります。

日本の私立小学校がしめる割合は、二%。全体から見れば私立小学校は本場にわずかな

「まあせんせい」

聖ドミニコ学院幼稚園 園長 小笠原 朋之



今年一月七日、仙台市太白区文化センター楽楽ホールで開催された「第三十四回仙台市私立幼稚園教員研修大会」に参加し、学校法人菊地学園理事長 菊地政隆氏の講演を拝聴しました。菊地氏は、男性保育士の先駆者として「まあせんせい」の愛称で親しまれ、保育士で唯一「TBC」情熱大陸」に取り上げられた方です。

希望の光

北仙台幼稚園 齋藤 潤子



コロナ禍で行われたクリスマスミサ。静かにロウソクの光が聖堂内に広がっていき、荘厳な雰囲気醸し出していました。

「あなたがたは世の光である…あなたがたの光を人々の前に輝かせなさい」

マタイ5 14:16

存在です。けれども、その一つ一つの学校に「建学の精神」があり、創立者の思いを伝えんとその教育を続けています。希少な存在であるからこそ意義が、各校にあります。

聖ドミニコ学院小学校も、その中の一つです。創立六十九年、三月に卒業する第六十四回生を含めた同窓生数は「六一五名」です。決して多いとはいえない同窓生。けれども、その一人一人が本校で学んだ教育の証として、大海の一滴となり、自分自身を大切に、同時に相手に大切に生き方を生かしていこうとしていると信じています。

学童期の六年間は、数字としてみれば短い時間です。最も感受性の強いこの時期に、どんなことが大切か、何を大切にして生きてい

さまにお伝えします。

二十名の園児たち全員で公園に出かけた時のこと、帰る時間になったが、聴覚障害をもっている子だけが「帰るよ」という先生の声が聞こえず、遊びに夢中になっていた。すると、ひとりの園児がサッとその子のもとに走っていった。残りの十八名も後に続いた。そうして二十名が横一列になって先生のところに戻ってきた。みんな笑顔で、とくに聴覚障害の子は笑顔が輝き、いい顔をしていた。

この経験から、先生は「幼児期に育むべき心の育ちがある」「子どもたち一人ひとりに幸せな大人になってほしい」、そこに向けて積み上げていくのが保育の仕事だ」と思うようになり、心の面でもいかに自主的な育ちあいをうながしていくことが重要だと考えるようになったというのでした。そして、園の存在価値は「心の

コロナウイルス感染症が流行する前から人間関係が希薄になっているといわれてきました。現在、変異型のオミクロン株の流行によって、教育現場でも社会でもお互いに配慮しながら人と関わる必要があらまねせん。

リモートでの仕事。いろいろな場で会話を控える事・マスクを着用する事。感染症予防のために求められていることですが、相手の顔を見て議論を交わし、たわいのないお喋りをする事でお互いを理解し合う事ができる。お互いの表情から相手の心情を感じ取るという事ができない現実の中で育つ子どもたちの今後が心配です。

しかし、子どもたちは困難をものともせず明

かなければならないか、しっかりとした価値観を育てていかなければなりません。自分を越えた絶対なるものの存在を知ること、損得やその時の感情で動くことの自制につながります。毎日の生活の中で祈る習慣が、自己中心的な考えからの解放につながります。感謝する言葉を口にする事で、自分勝手な言動を抑制します。小さなことを大切にすることを、大きな目標達成につながっていきます。

私立小学校で学ぶということは、そうした価値基準を建学の精神のもとで学ぶということです。新しい環境に入った時、戸惑うことが起きるかもしれません。そんな時、立ち返るのが、「真理」VERITAS」であってほしいと願っています。

育ちあひ」にあると結ばれました。講演会は、先生が作詞した、「こころの花」を歌われて締めくくられました。

一番 あなたのこころにさく花は きつとやさしい花だろ う だれにも負けないやさしいこころ それはたくさんの人をやさしくする そんなあなたがいて よかった

二番 あなたのこころにさく花は きつとつよい花だろ う だれにも負けないつよいこころ それはたくさんの人をつよくする そんなあなたがいて よかった

三番 あなたのこころにさく花は きつとげんきな花だろ う だれにも負けないげんきなこころ それはたくさんの人をげんきにする そんなあなたがいて よかった

るく元気に日々を過ごしています。まさに私たちにとって希望の光です。

裏表のないやさしさと人の態度、思いやりに満ちた笑顔は、この世界に希望の光を優しくともします。

一人一人の持ついろいろな彩りの光が、多くの人々に喜びや勇気、そして希望を与えてくれる存在である事を再認識すると同時に、多くの人と出会い多くの学びができる職業に就き今日まで過ごせたという恵みに、心から感謝しています。

ドミニコに集う子どもたちが、神様の愛に満たされて世の光となれますようにと…

函館修学旅行

(函館の歴史と文化を学ぶ旅)の思い出

二年一組 濱浦 祐菜 (三条中学校出身)

三日間の修学旅行を通して函館の歴史と文化をたくさん学べ、良い思い出を作ることができた。

二日目の自主研修や三日目の見学地で多くの歴史的な場所に行くことができた。自主研修では、旧函館区公会堂など昔の建物を多く見学した。日本で最初の貿易港となつたために函館には洋風でレトロモダンな雰囲気のあふれる場所が多く、明治時代を切り取ったような街だと感じた。五稜郭も日本初の洋式のお城ということ、あらゆる所に洋風の空気が残っていることに驚いた。どの建物も何回も修理して保存されており、函館は歴史を大切に守り続けている街なのだと感じた。

さらに函館ならではの美しい景色や自然を見ることもできた。夜景、イルミネーション、坂の上から眺めた景色はどれもきれいだ。特に函館山からの夜景は、海の黒と明かりのオレンジできれいなアーチを作っていて明かりもさることながら、色のコントラストも印象に残った。また、バスからの駒ヶ岳と小沼を見て、北海道の大自然に少し触れたような気がして良かった。

文化については、函館朝市などいろいろな市場に行き、港町の雰囲気を感じることができた。蟹が丸々一匹売られていたり、聞いたこともない名前のお魚類が売られていたり面白かった。ラッキョーエロは不思議だけれど遊び心のある店で、観光にはうってつけのインパクトのあるお店だと思った。

今回の修学旅行では函館のことを深く知ることができたし、素敵な場所がたくさん思い出を作れたので良かった。

